音楽中心の独文夏合宿

前野光弘教授がピアノを寄贈

文学部教授　松本道介
Michisuke Matsumoto

このところ文学部の独文学専攻では毎年野尻湖セミナーハウスで夏合宿をおこなっている。学生は自由参加で三、四十人。韓国の梨花女子大からも毎年何人か参加して頂いている。となるとドイツ語が主になるが、去年は一年生の参加者もかなり多く、ドイツ語についていけなくて困っていた。

そこで今年は思いきって音楽とスポーツを中心に置いてみた。その計画は同じ独文学専攻の前野光弘教授といっしょに立てたものだが、前野さんは合宿の直前にセミナーハウスへ新品のピアノを寄贈して下さった。前野さんは九一年から九二年にかけて学生部長をつとめておられ、その頃すでに野尻湖セミナーハウスの建て替えが議論されていたから、このセミナーハウスへの思い入れも強く持っておられたのだろう。

今年の四日間の合宿の中日にあたる七月十九日㈯の夜を音楽の夕べにした。まず全員がシューベルトの「水車小屋の乙女」の第一曲「さすらい」をドイツ語で朗読、暗誦してから、ピアノ伴奏で一節ずつ何回か練習したのち合唱。去年の授業で同じシューベルトの「野ばら」を暗誦していた二年九組の学生七人の合唱も入った。

合唱の次は飛び入りのヴァイオリン二重奏。一人は私の息子で、三年つとめた会社をやめて今年は新たな職探しのさなかなのだが、小さい頃から鈴木メソッドのヴァイオリン教室に通っていた。教室の後輩にわが独文学のドイツ人教授デトレフスさんのお嬢さんセーニャちゃん(小四)がいることがわかり今年のゼミで合奏が実現したのである。

セーニャちゃんのお母さんは文学部でイタリア語を担当されるマリネッラさん。シューベルトに対抗して「オーソレミオ」の歌詞を配布され、全員でイタリア語の発音練習から発声練習に入り最後は大合唱となる。そのあとに日本の合唱曲も次々にとび出してこの「音楽の夕べ」は大いにもりあがった。

しかもこれらの合奏、合唱には終始見事なピアノ伴奏がついている。今度のゼミで私が驚いたことのひとつは、わが独文専攻の学生にこんなにも多くのピアノをひける学生がいたかということである。そのうち三人は音楽大学へ行っても十分に通用しそうな腕前の持ち主だった。前野先生は本当にいい時、いい場所にピアノを寄贈されたと思った。

スポーツはテニス、サッカー、水泳、ハイキングに汗を流した。長梅雨のさなかだったのに一度も雨に降られなかったから運もよかったと思う。紙数もつきたが、最後に一言、ゼミでは勉強の方もちゃんとやりました。さらにもうひとつ、マリネッラさんのイタリア料理講習会もありました。

合唱を終えて。後ろに寄贈のピアノ(左端・筆者)
＝長野県・中大野尻湖セミナーハウス